



日刊労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）

電話 {(鉄電) 千葉 2935・2939番
(公) 043(222)7207番}

96.11.8 No.4496

台風17号災害— 危険箇所がいっぱい！ —早急に対策を！

1 台風17号は、鋸山トンネルの土砂崩壊等の危険災害を各所にもたらしたが、台風による災害内容、災害が発生した原因及び発生から復旧に至る経過を明らかにすること。

台風17号による災害は、自然斜面及び切取斜面の崩壊によるものが大半であった。また、災害のおもな発生原因是多量の降雨によるものと考えられ、列車の抑止中に発生したものであった。

各災害現場では、災害の発見後に応急工事に着手し、鋸山トンネル付近の災害現場を最後に列車の運行を再開した。現在は、復旧工事計画を策定中であり、準備出来次第、工事着手していく考えである。

2 重大な災害が発生した状況に踏まえ、安全に関する管内の一斉点検を行うこと。

内房線等の災害箇所については、本社等に現地調査を依頼し、災害対策計画等の指導を受けて復旧作業を行ったところである。

また、他の線区については、レールスター等により点検を実施したところである。

なお、今後においても千葉支社管内の構造物については、検査計画に基づいて順次検査、点検していくことになる。

3 この間、在線表示点灯による輸送混雑が多発している状況に踏まえ、千葉支社として、その原因及び対策について、考え方を明らかにすること。

在線表示の点灯については、平成8年4月から9月末までの発生件数は8件であり、対前年同期と比較すると減少傾向になっている。いずれも原因は明らかになっており、対策として、同種設備の総点検及び交換を実施する他、設備強化に努めているところである。

「日刊」で既報の災害発生から復旧までの間の勤務や乗務員運用の問題について、十月三〇日に危険箇所等に関する団体交渉が行なわれた。

未だ放置されたままの危険箇所

これらの箇所は、徐行をかけられたわけでもなければ、具体的な対策がとられるわけでもなく、現在のところ放置されている。

危険ではないと繰り返すのみ

団体交渉では、組合側からこれら箇所を具体的に指摘しつつ、議論を行なった。しかし千葉支社は、「危険だとは判断していない」と繰り返すばかりで、何ひとつ具体的な回答をしない。

「どのような状態なのか、どのようないか」と度々質しても、「危険な状態とは考えていない」と繰り返すばかりだ。

鋸山トンネルの土砂崩壊について、「落石覆い」はどの程度の耐用強度をもつていたのか現段階で技術的な検討はどこまで進んでいるのか等質して、「予想を超えた降雨量だったので、……」と言う以上、何も具体的な回答はない。

それどころか、あたかも、直ちに運転規制をかけて復旧対策を行なつたかのように回答した箇所が、実は、運転士が何度も申告しても無視されづけ、結局、地元住民から連絡が入るまで放置されていたことも明らかになつた。これは、香取一水郷間で、土砂の地滑りにより、土止めの

わかれている。

なつてきている。

これらの箇所は、徐行をかけられたわけでもなければ、具体的な対策がとられるわけでもなく、現在のところ放置されている。

安全一斉点検を

さらに、常に冠水に見舞われる本納駅構内は、台風の日、冠水に気がついた運転士がブレーキ扱いを行なつたが、約一〇〇キロのスピードで冠水した線路に突っ込み、車体が浮き上がるようになつたと言つている。それまでは運転規制もかかっていなかつたのだ。このような箇所は特別な運転規制値を設ける必要があるということだ。

また、安房小湊の大風沢トンネルでは、風呂桶をひっくり返したような鐵砲水がでている。まだまだあげればきりがない。

しかし、千葉支社は、こうしたことの一切を「危険だとは判断していない」「大丈夫」の一言で済ませてしまうのだ。事は、乗客や運転士の生命に係わる問題だ。千葉支社は、安全に関する一斉点検を行い、早急に対策をとれ。危険を放置することは許されない。

11/10 指定列車
ヤマト 千葉 10時34分
JR 2 階 千葉 12時49分